

4 安定したさとうきび生産技術の確立と持続ある産地の育成

1 対象

J Aあまみ和泊地区さとうきび部会， J Aあまみ知名地区さとうきび部会， J Aあまみ与論地区さとうきび部会

2 課題を取り上げた理由

- (1) さとうきび生産は，台風や干ばつ，害虫の発生により生産量が不安定な年も多く，単収の高位平準化が必要である。
- (2) 高齢化と労働力不足が進む一方，機械化による規模拡大が進んでいる。今後，担い手の経営安定のためには，生産技術の向上及び経営改善とともに，次世代の担い手育成・確保や生産者組織体制の強化が必要である。

3 活動内容

- (1) 生産安定対策支援と省力化技術の確立

ア 適期管理及び干ばつ時のかん水の啓発と実践支援

関係機関・団体と生産技術対策や病害虫・雑草防除，干ばつ対策等について検討し，研修会や各種広報等により生産者に周知を図った。

イ 早期株出管理，土づくりの推進等による生産安定の支援

(ア) 早期株出管理の展示ほを設置し，株出管理時期による生育の違いを検討した。㊦

(イ) 堆肥施用実証ほを設置し，堆肥施用効果について検討した。㊦

(ウ) 土づくり研修会を開催し，堆肥の土づくり効果や肥料効果について講習を行った。

ウ 規模拡大や適期管理に対応した機械化や省力化技術の導入検討

(ア) ビレットプランタに適する良質な苗生産に向け，農林8号，22号，23号，30号を供試した実証ほを設置し，ハーベスタ採苗に適應する年2回採苗体系を検討した。㊦

(イ) ビレットプランタ植付ほ場の現地検討会を開催し，生産者とビレットプランタ植付の問題点や改良点等について検討した。㊦



年2回採苗体系実証ほの設置㊦



ビレットプランタ植付ほ場現地検討会㊦



土づくり研修会㊦



土づくり研修会㊦

(2) 農作業受託組織の育成支援

ア 沖永良部島農作業受託組織の課題整理と運営支援

新たな受託メニューとなったビレットプランタのほか、各作業の受託状況や問題点等について検討を行った。

4 活動の成果

(1) 生産安定対策支援と省力化技術の確立

ア 適期管理及び干ばつ時のかん水の啓発と実践支援

沖永良部では梅雨期の長雨による初期管理（株出管理、植付）の遅れや干ばつによる収量への影響が懸念される。一方、与論島ではその影響は少なく、平年並み以上の収量は確保できる見通しである。

イ 早期株出管理、土づくりの推進等による生産安定の支援

展示ほの設置により、管理時期による生育の違いが確認できた。㊥

堆肥による土づくりや化学肥料代替についての理解が得られた。

ウ 規模拡大や適期管理に対応した機械化や省力化技術の導入検討

(ア) 農林8号、22号、23号、30号の3月定植後、6か月の生育期間で採苗できる苗の品質や生産量の確認ができた。㊥

(イ) ビレットプランタ植付における注意点（植付量やかん水、ほ場条件等）について生産者や関係機関とともに確認できた。㊦

(2) 農作業受託組織の育成支援

ア 沖永良部島農作業受託組織の課題整理と運営支援

委託者にビレットプランタ植付による欠株等のリスクを説明した上で受託を行うことにより、ビレットプランタに対する理解が進みつつあり、受託面積も増加してきている。

5 今後の課題

(1) 生産安定対策支援と省力化技術の確立

ア 適期管理及び干ばつ時のかん水の啓発と実践支援

関係機関・団体と連携した、研修会や広報でのかん水や害虫・雑草対策等の周知の継続

イ 適期管理や土づくりの推進等による生産安定対策の普及

実証ほの設置や研修会の開催による土づくりの推進

ウ 規模拡大や適期管理に対応した機械化や省力化技術の導入検討

(ア) 夏植ー春採苗体系による年2回採苗体系の検討㊥

(イ) ビレットプランタ植付における欠株防止対策の検討㊦

(2) 農作業受託組織の育成支援

ア 沖永良部島農作業受託組織の課題整理と運営支援

スクープ等の作業体系の整理による新規メニューの追加支援

6 担当した普及職員（○印はチーフ）

○西裕之，田中慶